

5号機タービン建屋内における空調ダクトへの空気の吸い込みについて

<概要>

(事象の発生状況)

- 平成 22 年 6 月 10 日、5号機タービン建屋の空調機室の空調ダクトに穴が開いており、管理区域の空気を吸い込み、中央制御室に流れ込んでいることを確認しました。

(対応)

- 空調機を停止し、穴から空気の吸い込みがないことを確認しました。
- 穴の開いた部分を覆うカバーを取り付けました。
- 今後、穴の開いた部分の交換を行い、穴が開いた原因等を調査します。

(安全性、外部への影響)

- 調査の結果、空調ダクトの穴の周辺には、放射性物質は確認されませんでした。
- 本事象による外部への放射能の影響はありません。

(公表区分)

- 本事象は公表区分Ⅲ（信頼性向上のために公表する事象）としてお知らせするものです。

詳細は以下のとおりです。

1. 事象の発生状況

平成 22 年 6 月 10 日午後 3 時頃、5号機タービン建屋 2 階の空調機室（管理区域*）において、空調ダクトの伸縮継ぎ手部に穴が 2 箇所（約 40mm×7mm、約 30mm×3mm）開いていることを、中央制御室の空気流入量測定作業の準備を行っていた当社社員が発見しました。

当該ダクトは中央制御室（非管理区域）の空気を換気するためのもので、開いていた穴から管理区域の空気を吸い込み、中央制御室に流れ込んでいることを確認しました。

2. 対応

当該伸縮継ぎ手部が接続されている空調機を停止し、穴から空気の吸い込みがないことを確認しました。

また、応急処置として伸縮継ぎ手部全体を覆うカバーの取り付けを行いました。

今後、準備が整い次第、伸縮継ぎ手部の交換を行います。

なお、屋内空調ダクトについては平成 22 年 2 月までに点検を終了しており、当該部についても平成 21 年 12 月 7 日に健全であることを確認しておりました。

今後、穴が開いた原因等を調査します。

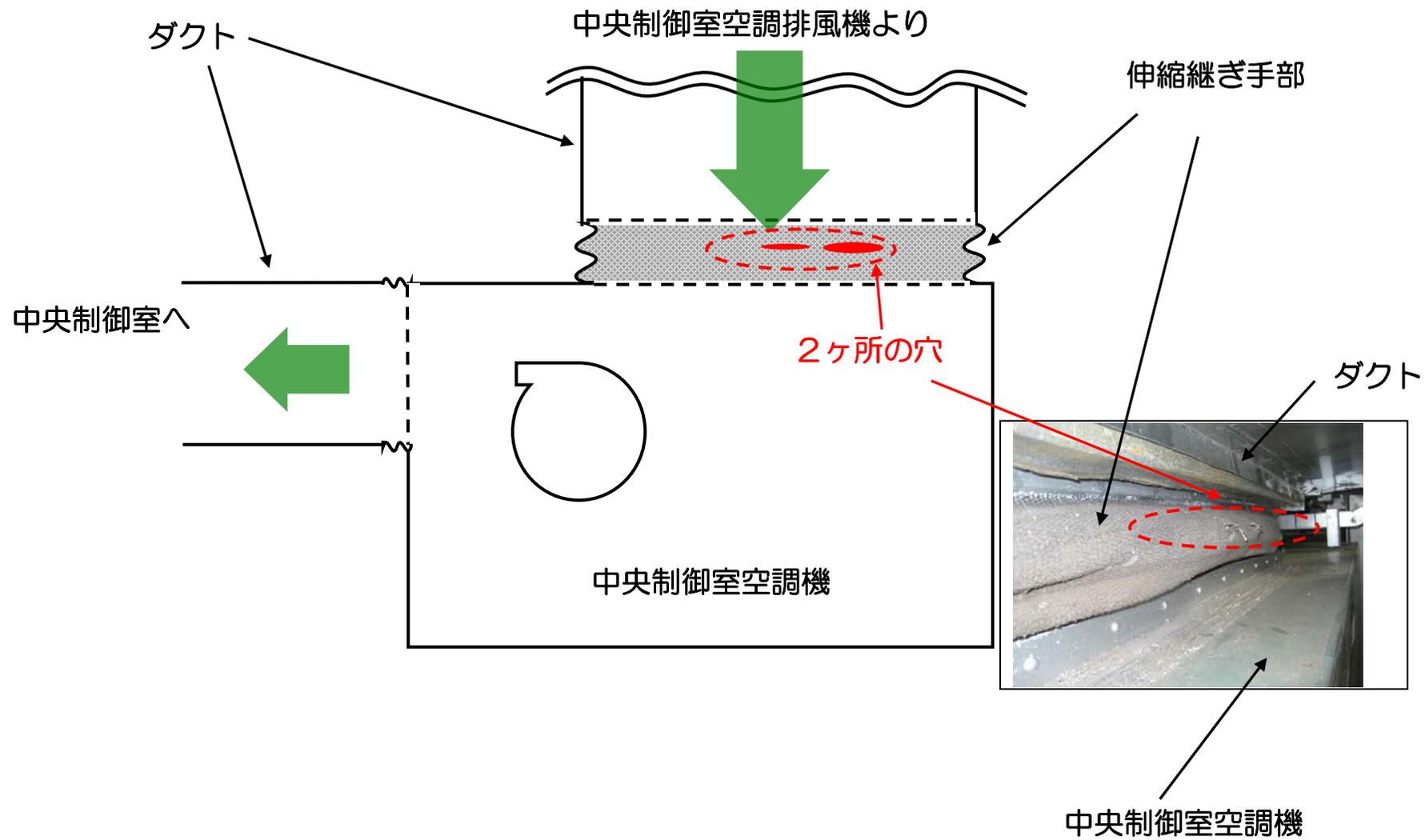
3. 安全性、外部への影響

調査の結果、管理区域内の空気や当該ダクトの穴の周辺には放射性物質は確認されず、中央制御室への放射性物質の流れ込みはなかったものと評価しております。

また、空間線量率を測定するために発電所敷地周辺に設置されているモニタリングポストの値は、通常の変動の範囲内であることから、外部への放射能の影響はなかったものと評価しております。

* **管理区域**

放射線による無用な被ばくを防止するため、また、放射性物質による放射能汚染の拡大防止をはかるために管理を必要とする区域。



5号機タービン建屋で確認した空調ダクトの穴付近概略図